



経済産業省の平成30年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (通称「サポイン事業」)に3件採択されました

(公財)長野県テクノ財団は、経済産業省の平成30年度戦略的基盤技術高度化・連携支援事業～戦略的基盤技術高度化支援事業～(通称「サポイン事業」)に事業管理機関*として提案し、このたび3件が採択されました。これにより、当財団が事業管理機関として実施するサポイン事業は、継続案件を含め8件となりました。

1 内容 (公財)長野県テクノ財団では、県内企業の産学官連携研究開発を支援するため、裾野産業の技術向上につながる研究開発や販路開拓を支援する経済産業省の補助事業「戦略的基盤技術高度化支援事業(以下、サポイン事業という)」の活用を進めております。今回、平成30年度のサポイン事業へ事業管理機関として応募した結果、以下の案件が採択となりました。

今後、各研究開発プロジェクトの共同体構成員(企業、大学、公設試など)と共に研究開発成果の創出に向けて、最大3年間事業を推進してまいります。

2 採択案件一覧(詳細は別紙参照)

- ・キノコ廃培地からの高純度希少糖生産法の研究開発
- ・民間航空機に搭載可能な非接触ハイブリッドブレーキシステムの研究開発
- ・ナノコンポジット摩擦材による超小型軽量電磁ブレーキの開発

また、サポインの詳細については、下記URLを参照ください。

<http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sapoin/index.html#sapoin>

*戦略的基盤技術高度化支援事業における事業管理機関とは、研究開発計画の運営管理、共同体構成員相互の調整を行うとともに、研究開発成果の普及等を主体的に行う者です。

公益財団法人長野県テクノ財団
(事務局長)西原 快英 (担当)清水 基弘
電話 026-226-8101
FAX 026-226-8838
E-mail techno@tech.or.jp

研究開発計画名	概要	共同体構成員	長野県テクノ財団 担当セクション
キノコ廃培地からの高純度希少糖生産法の研究開発	食品産業界から期待されている高純度かつ低価格で、しかも地球にやさしい希少糖の実現に向けて、「バイオマス糖化技術」と「光触媒による糖変換技術」により、キノコ廃培地からの希少糖生産法を実用化するものである。具体的にはバイオマス糖化工程の低コスト化及び精製・濃縮工程の最適化を図り、さらに光触媒反応による糖の変換を一貫して行う方法を確立する。併行して、事業化へ向けた希少糖の安全性試験を実施する。	信光工業株式会社（長野市） アクティブ株式会社（千葉県野田市） 株式会社キノコ村（長野市） 学校法人東京理科大学 公益財団法人長野県テクノ財団	新事業企画室
民間航空機に搭載可能な非接触ハイブリッドブレーキシステムの研究開発	従来の航空機に搭載されているブレーキは接触式であり、ブレーキの摩耗のため頻繁な点検と交換が必要であった。「民間航空機に搭載可能な非接触ハイブリッドブレーキシステム」という新しい技術を開発することで摩耗が少なく点検と交換頻度が延長されたブレーキシステムの構築のため、研究開発を行う。	多摩川精機株式会社（飯田市） 国立大学法人信州大学 公益財団法人長野県テクノ財団	伊那テクノバレー 地域センター
ナノコンポジット摩擦材による超小型軽量電磁ブレーキの開発	多関節ロボットに内蔵されているアクチュエーターは重量がかさんでおり制御時の慣性力が大きく高精度、高速度制御の問題点となっている。アクチュエーターを構成する電磁ブレーキは川下製造業者から軽量化を強く求められており超小型ブレーキの開発を行う。ナノコンポジット摩擦材の開発による摩擦係数増加と、電磁石構造の効率化を軸に研究することで、従来のブレーキ重量を1/2にする。	株式会社協和精工（高森町） 興和ゴム工業株式会社（須坂市） 国立大学法人信州大学 公益財団法人長野県テクノ財団	伊那テクノバレー 地域センター